友のお供新聞

水戸ＲＣ
雑誌委員会

発症から撲滅へ

日本のポリオ、課題も

京都モーニングＲＣ創立会員で、医師の太田和夫さんが日本のポリオの発症から根絶の状況、そして今後の課題について報告しています。（●横組み12Ｐ～）

ロータリーの友１１月号の表紙

太田さんは、日本で多くのポリオ患者が発生したことを受け、京都に設立された「肢体不自由児施設聖ヨゼフ整肢園」（現・聖ヨゼフ医療福祉センター）で約６年間、ポリオの治療に携わっていました。

日本では１９６４年、生ポリオワクチンによる定期接種が開始され、１９８１年以降には野生ポリオウイルスは検出されておらず、２０００年にポリオの根絶をＷＨＯに報告しています。

また、１９８８年に国際ロータリーがＷＨＯ、ユニセフなどとともに「世界ポリオ根絶推進活動」参加して以来、約四半世紀を経て、ポリオ発生は99・９％減少しているそうです。

しかしながらエイズ、エボラ出血熱、鳥インフルエンザ、ジカ熱など人類と感染症の対峙は終わらないとしています。

難民にシェルターを

ＵＮＨＣＲが支援呼びかけ

南スーダン実施されたＵＮＨＣＲの支援活動

東京中野ＲＣ（現・東京セントラルパークＲＣ）の推薦で、財団国際親善奨学生として２００５年にイギリスに留学した阿阪奈美さんが、難民の実態を報告、支援のための資金提供を呼びかけています。

阿阪さんは、２００８年以来、国連難民高等弁務官事務所（ＵＮＨＣＲ）の職員として南スーダン、スーダン、エチオピアなどで活動しています。ＵＮＨＣＲは２０１６年５月、グローバル・シェルター・キャンペーンを開始し、２０１８年までに難民２００万人のためのシェルター建設、または改善のための資金提供を呼びかけています。

（●横組８Ｐ～）

★米から研修チーム来訪

基本的教育と識字率向上を目的に米第７９３０地区から職業研修チーム（ＶＴＴ）が来日、千里ＲＣなどと交流しました。同ＲＣが以前、財団国際親善奨学生を派遣したことがきっかけ。

（●横組20Ｐ）

★小泉八雲から考える

島根県立大短期大学部教授で小泉八雲記念館長の小泉凡さんが、国際ロータリー第２５９０地区のＩＭで講演。「オープン・マインドを現代に生かす　小泉八雲から考える」と題して話されました。

（■縦組４Ｐ）

★Ｒ－ノミニーにオオリ氏

国際ロータリー（ＲＩ）会長指名委員会が開かれ、２０１８～２０１９年度ＲＩ会長として、ウガンダのカンパラ・ロータリークラブ所属のサミュエル・オオリ氏が満場一致でノミニーに指名されました。

（●横組33Ｐ）

★ロッカーがポリオ撲滅大使

ロックの殿堂入りを果たしたドノヴァン・レイッチ氏がロータリーのポリオ撲滅大使になりました。ドノヴァン氏は３歳でポリオに感染、幼少期を病床で過ごしながらも克服、音楽で大成しました。

（●横組19Ｐ）

ロータリーの友を読もう

みなさん、「ロータリーの友」11月号を手にしましたら、ぜひ縦組み31ページをご覧ください。掲載されているんです。水戸ＲＣ雑誌委員会が発行している「友のお供新聞」が。

「ロータリーの友」を多くの会員に読んでほしいと、「お供新聞」を発行しましたが、さらに全国のクラブにも参考になればとロータリーの友事務所に相談したところ、さっそく取り上げていただきました。

本文はそのままですが、写真説明では過分に持ち上げていただきました。「『友』誌より人気！？　好評の『友のお供新聞』」

「お供新聞」は今月で、第５号となります。今回は、日本のポリオの経過状況、難民の問題などを取り上げましたが、いずれもロータリーと深く関わっています。記事を読んでいますと、いかに世界のロータリアンのみなさんが国際貢献されているか、驚かされるばかりです。（風鳶）